

平成30年9月台風24号における大渡ダムの治水効果
～大渡ダム、桐見ダム(高知県管理)の連携により浸水被害を軽減～
(速報)

■ 要旨

- 仁淀川流域では、台風24号の影響により9月29日から10月1日までの総降水量が多いところで400ミリを超えるなど、記録的な大雨となりました。
- 大渡ダムでは、約1,600万 m^3 の洪水を貯留し、仁淀川の越知地点の水位を約50cm低下させました。
- 大渡ダムと桐見ダム(高知県管理)の連携により、ダムの容量を最大限有効に活用したことにより、ダムがない場合と比べ、浸水面積を約2割程度軽減させるとともに浸水時間を低減させました。
- 大渡ダムにおいて、年間平均の約4倍にあたる約2,000 m^3 の流木を捕捉することにより、流木による下流の被害を軽減させました。

※本資料は、10月3日 8時時点でとりまとめたものです。

※本資料による数値は、現時点での速報値であり、今後修正される場合があります。

【問い合わせ先】

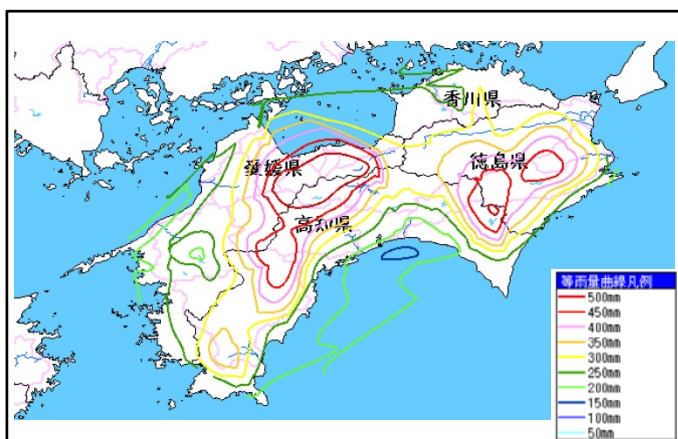
国土交通省 四国地方整備局 大渡ダム管理所
管理所長 湯佐 昭二(内線201)
◎管理第一係長 重成 弘紀(内線332)
TEL(0889)32-2120
◎主たる問い合わせ先

■ 台風24号の気象概要

- 平成30年9月21日21時にマリアナ諸島付近で発生した台風24号は、大型の台風となって沖縄の南海上を北上を続け、四国を縦断し、9月30日20時頃には和歌山県田辺市付近に上陸しました。
- 仁淀川流域では、この台風により9月29日から10月1日までの総降水量が多いところで400ミリを超えるなど、記録的な大雨となり、大渡ダム上流の流域平均総降水量は、318mm(速報値)を記録しました。

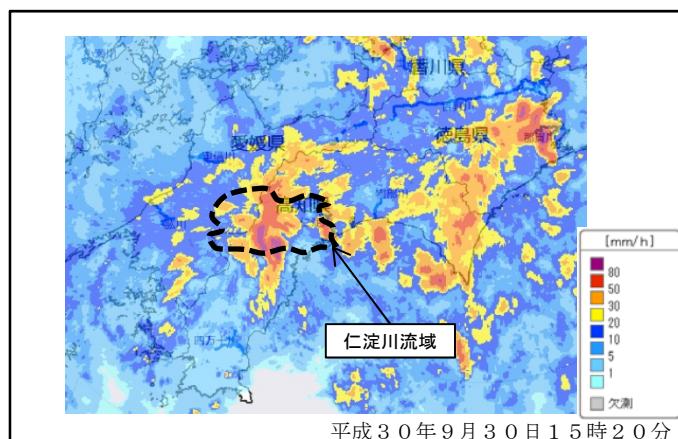
■ 台風24号等雨量線図(国交省・気象庁観測地点)

[総雨量:平成30年9月28日～平成30年10月1日]



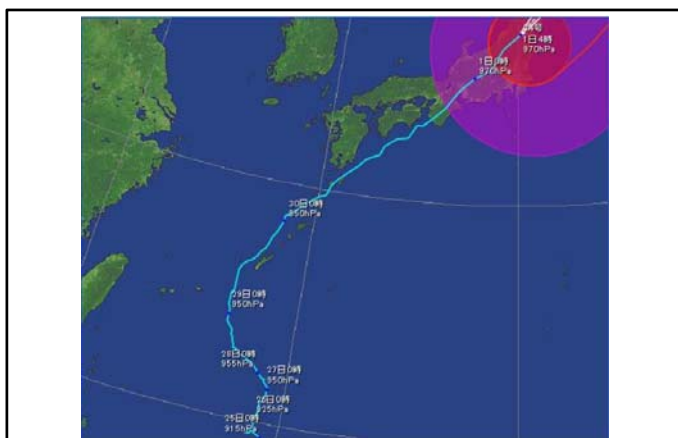
■ レーダー雨量画像

(出典:川の防災情報ホームページ)

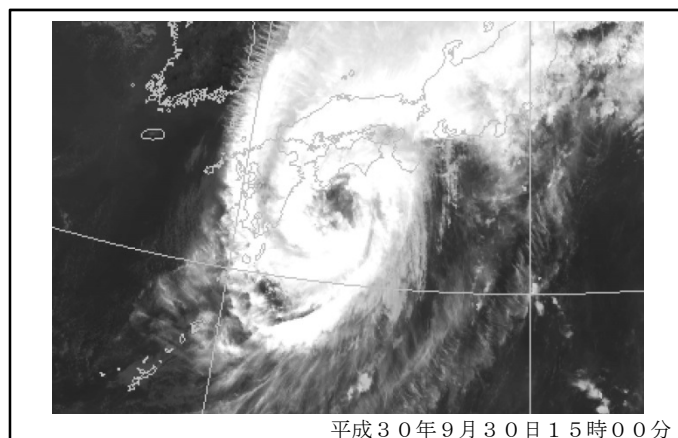


平成30年9月30日15時20分

■ 台風24号経路図(出典:気象協会ホームページ)



■ 気象衛星画像(出典:気象庁ホームページ)



平成30年9月30日15時00分

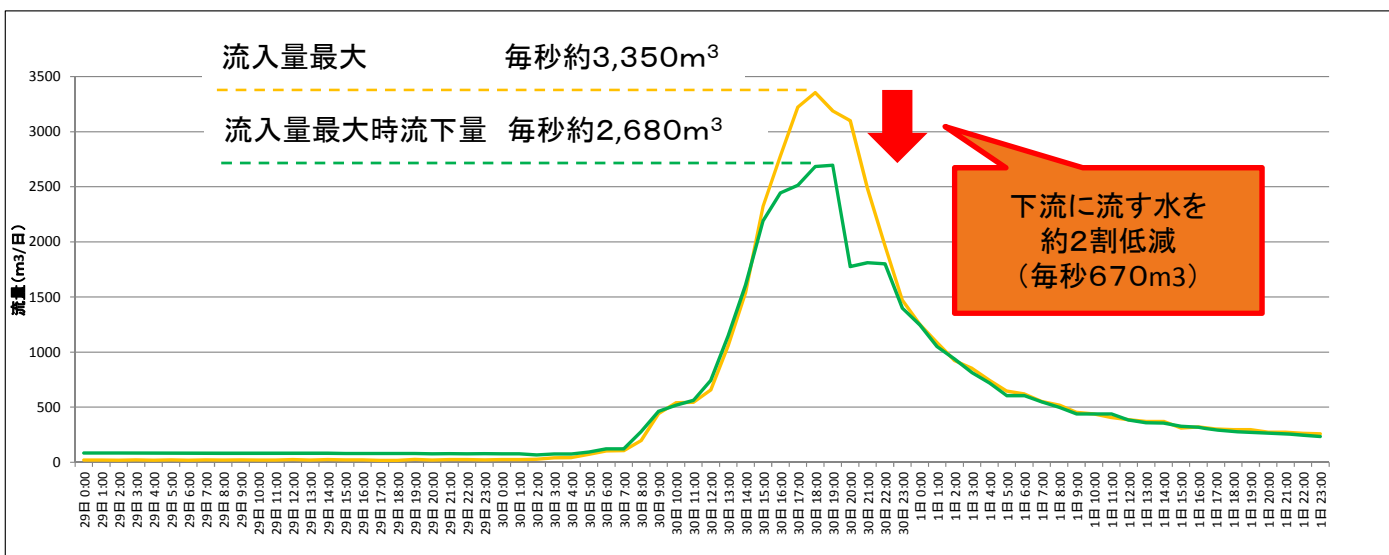
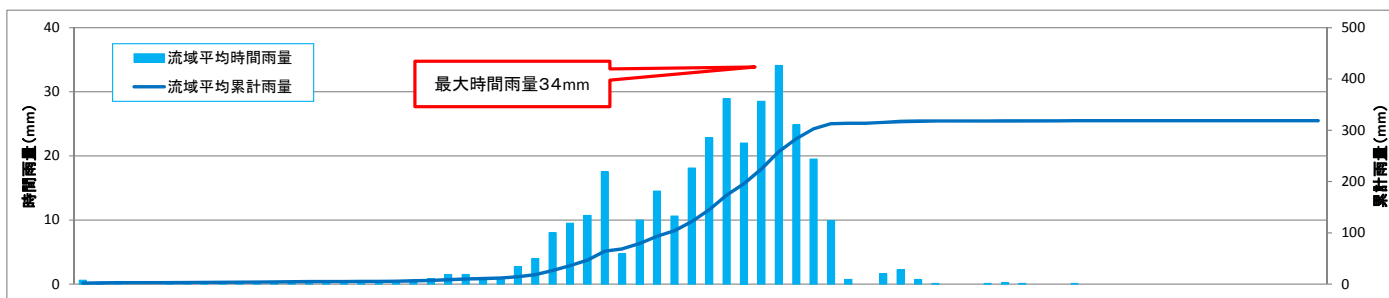
■ 代表的な雨量観測所における累加雨量

仁淀川流域:池川 (国交省) 363mm

・大渡ダムの洪水貯留の状況

■ 台風24号における大渡ダム洪水貯留状況

➤ 大渡ダムでは、最大流入量毎秒約3,350m³のうち、約2割に相当する毎秒約670m³をダムに貯留し、ダムからの流下量を約2,680m³に低減させました。



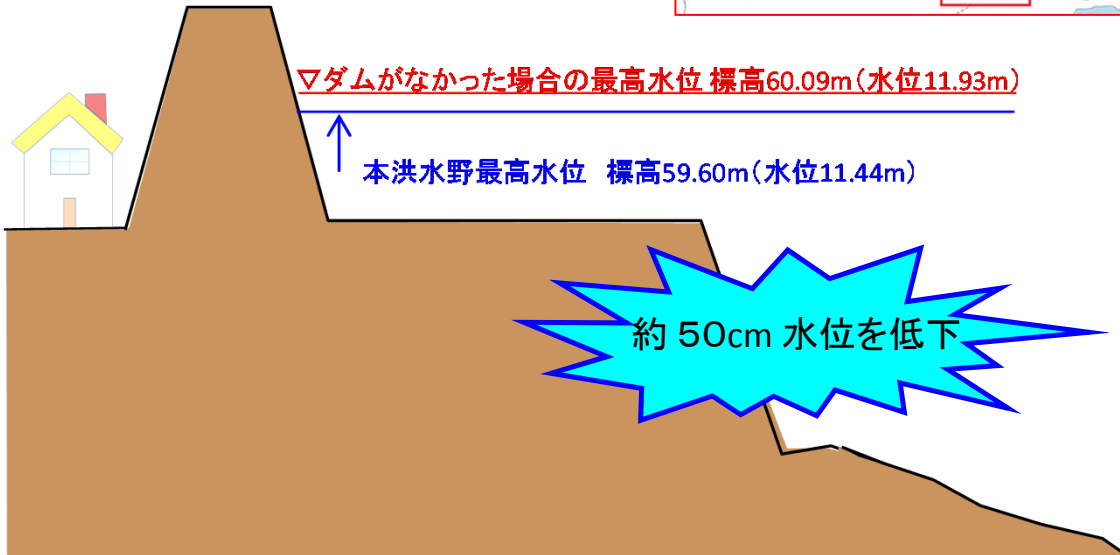
■ 大渡ダムの流木の捕捉状況

● 大渡ダムにおいて、平年の発生量の約4倍にあたる約2,000m³の流木を捕捉することにより、流木による下流の被害を軽減させました。



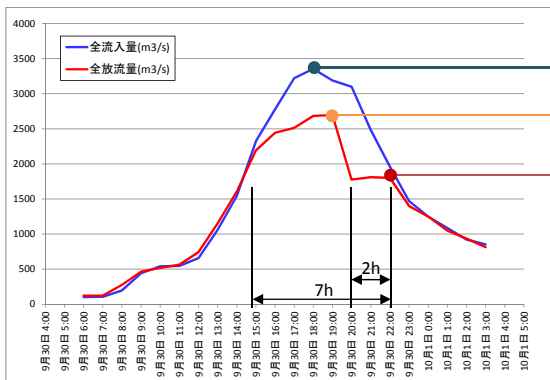
■ 大渡ダムに洪水を貯留したことより 越知地点の水位を低減

➤ 大渡ダムの洪水貯留により、ダムが無かった場合の越知地点の河川の水位を約50cm低下させました。

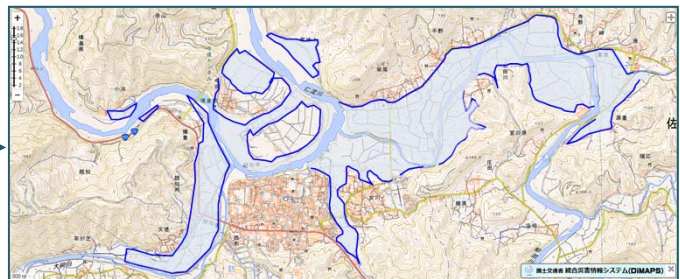


■ 大渡ダム、桐見ダムの連携による越知地点の効果について

➤ 大渡ダムと桐見ダム(高知県管理)の連携により、ダムの容量を最大限有効に活用し、ダムがない場合と比べ、浸水面積を約2割程度軽減させるとともに浸水時間を低減させました。

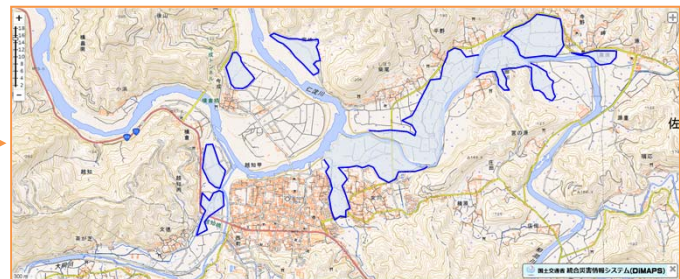


大渡ダムのハイドログラフ



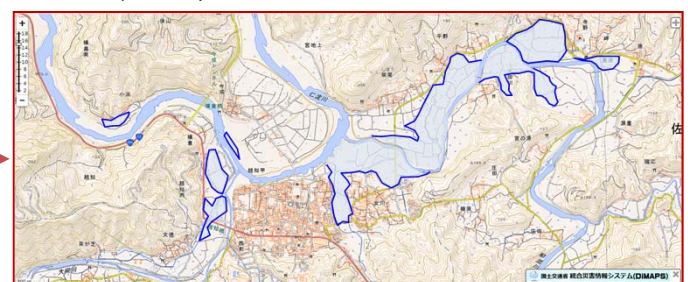
ダムが無かった場合(推定浸水面積: 222ha)

浸水面積を約2割低減



ダムから2,650m³/sを流下させた場合(推定浸水面積: 120ha)

浸水面積を約3割低減
及び
浸水時間も約2時間短縮



ダムから2,000m³/sを流下させた場合(推定浸水面積: 99ha)